

駐大連北九州市経済事務所

◆所長 田代 昇三 ◆副所長 古賀 直樹
◆副所長 呂 俐 ◆主任 劉 振傑
田代 e-mail: yumeiyasu4411@yahoo.co.jp

深刻な大気汚染に環境ビジネスのテコ入れの期待高まる。

中国各地の広範囲で1月7日以降、煙霧の天気が続いている。13日時点でも長期に亘って濃霧に覆われる地域が多く、中央气象台は引き続き濃霧黄色警報を発令。各地の環境保護・衛生・交通等の各部門は対応措置に追われている。

(2013/1/14 人民日報より抜粋)

日本国内においても、中国各地で汚染物質を含有した濃霧が発生し、交通機能の混乱が発生していることや、身体への影響が懸念されるとの報道がされておりますが、ここ大連においても同様の報道が連日なされています。遼寧省環境監督測定実験センターが発表した大気汚染の度合いを示す汚染指数は瀋陽市で279（中度の大気汚染を示し一定時間の接触で、心臓疾患、肺疾患の患者に著しい病状の悪化が見られる程度の値）を記録し、大連市内の経済技術開発区等で瀋陽市と同レベルの227という数値が観測されています。

中国各地では、かかる状況を受け交通面では、車間距離の確保や昼間でもライトを点灯すること、速度制限を行う等の対策が取られています。また、市街地の市民に対しては不要不急の外出を避けること、高齢者や呼吸器系に疾患のある方々の外出見合わせ、外出する際のマスク着用等呼びかけています。

中国政府は2011年～2015年までの第12次五カ年計画で「グリーン経済」「低炭素型経済」への転換を打ち出しているものの、まだまだ環境問題が深刻なことに変わりはありません。同計画に基づき政府の規制強化や各種環境ビジネスのテコ入れといったことが今後も見込まれます。1960年代の公害問題を乗り越え環境未来都市となった北九州市で鍛えられた市内企業の皆様や当市に蓄積されたノウハウがここ大連を中心に中国全土に更に広がっていくこと、市内企業の新たなビジネスチャンスの到来となることが期待されます。



有害物質を含んだ霧がかかり視界の悪くなった様子

1月13日時点で汚染指数の高い10都市

	都市名	汚染指数
1	石家庄	500
2	邯鄲	500
3	保定	500
4	北京	498
5	長春	375
6	唐山	295
7	瀋陽	279
8	西安	240
9	成都	232
10	鄭州	226